

# 米国における 豚と接触歴のない豚インフルエンザ患者の発生について

平成 23 年 11 月 24 日

健康局結核感染症課

本日、一部の報道機関で、米国の豚インフルエンザに関する記事が掲載されましたので、事実関係と今後の対応について、情報提供します。

## 1 事実関係

○ 11月22日、米国疾病予防管理センター（CDC）は、同国アイオワ州においてインフルエンザ A（H1N1）2009 の遺伝子を有する豚インフルエンザ（H3N2）の人から人への感染事例が発生した旨を公表した。

- ・ 患者は3人の小児で、豚との接触はないが、当該小児は互いに接触があった。3人ともに、軽症で、既に回復している。

○ 同様のウイルスは、今年の7月から、既に7例報告されてきたが、そのうち6例は、豚との直接接触があり、1例は患者を看護した者である。7例のうち3例が入院したものの、現時点では、全員が回復している。

- ・ CDCの公表によると、このウイルスは、人のインフルエンザ A（H3N2）とは、かなり異なっており、季節性インフルエンザワクチンによる交差免疫性は、成人で限定的、小児ではない。しかし、抗インフルエンザ薬であるオセルタミビルやザナミビルには感受性があり、CDCは、季節性インフルエンザと同様、豚インフルエンザの治療に、これらの薬剤による治療を推奨している。

○ CDCは、豚と接触歴のない事例の報告を受けて、サーベイランスを強化している。

（参考）CDCのMMWR（疫学週報）

<http://www.cdc.gov/mmwr/pdf/wk/mm60d1123.pdf>

## 2 対応方針

○ 引き続き、WHO、CDC、国立感染症研究所等からの情報収集に努めつつ、今後の発生状況等を注視していくこととする。